

学生たちが受け継ぎ培った校風と理念

学芸会

大学文書館 井上高聡



学芸会創設に中心的役割を果たした成田軍平（1895年、大学文書館蔵）

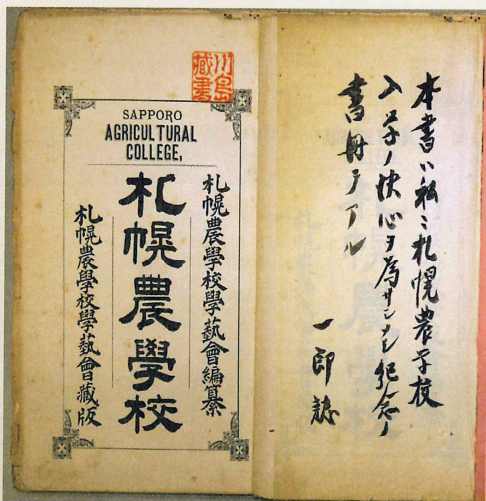
札幌農学校では、W.S.クラークら外国人教師たちが弁論・演説を奨励し、英米文学の講義を行なったことから、学生の文芸活動が盛んであった。数人から数十人規模のいくつかのサークルでの活動が多かったが、一八九二年、予科（本科へ進学するための準備教育課程）の生徒が中心となり、新たに「学芸会」を組織した。学芸会は、新渡戸稲造教授を会頭に迎え、予科生を通常会員とし、他に本科生や教員、卒業生なども加入できた。発足時に七割方の予科生が加入、数年後にはほぼ全員が会員となった。さらに本科生や他コースの学生の参加も増え、全校を挙げた校友会組織となっていた。

学芸会は、知識・学芸の振起、文章・弁舌の修練、団結力の強化、風紀の更正、士気の鼓舞を活動の目的とし、教養を大切にしている。札幌農学校の校風を受け継いでいくことを掲げた。主な活動は、講演会・演説会・討論会などの開催と機関誌『蕙林』の刊行であった。講演会などでは農学校教授陣はもちろん学生・生徒も

弁舌を振るった。「蕙林」には、例えば、新渡戸教授が学生時代の思い出や歴代の外国人教師の人柄を面白可笑しく紹介し、自身の留学経験を披露した。予科生安東幾三郎はクラークの伝記を連載し、他に教師・学生の講演記録や調査・研究・論説なども掲載した。

一八九八年には学芸会は、受験生向けに札幌の風物・気候、学校の沿革などを百数十ページにわたって紹介した『札幌農学校』を刊行した。この進学ガイドブックが札幌農学校を全国区に押し上げたと言われている。実際に、一八九〇年に入学した川嶋一郎は、「本書八私二札幌農学校入学ノ決心ヲ為サシメシ紀念ノ書冊デア」と書き込んで終生手許に置いていた。学芸会の名称には当初、「蕙

林会」とする案もあったという。「蕙」の字は「かおりぐさ」と訓読みし、香りの高い植物を示す。転じて賢人君子の喩えとしても用いられる。「蕙林」は、学識に富む賢明な人々の集まりを意味した。農学校生たちは自身の教養を討究・研磨し、そこを「蕙林」とらしめようと努めた。現在、北海道大学が掲げる「全人教育」（教養教育の重視）という理念は、学生・生徒たちがこのような活動を通して支えてきたと言つてよいだろう。



川嶋一郎が書き込みをした『札幌農学校』（大学文書館蔵）